

インドネシア・バリ島における宗教空間に関する研究  
 プンゴセカン村のムルタサリ寺院を対象として  
 A Study of Religious Space in Bali, Indonesia  
 At the Mertasari Temple in Pengosekan Village

○興津亜海<sup>1</sup>, 小島陽子<sup>2</sup>  
 \*Ami Okitsu<sup>1</sup>, Yoko Kojima<sup>2</sup>

Abstract: This study examines the Mertasari Temple in Pengosekan Village, Bali. Focusing on its architectural structures, it reports their roles, materials, and decorative features. The results show that hierarchies are expressed through materials and base heights, and that sacred orientations guide the placement of important buildings. These findings offer insights into future research on Balinese temple architecture.

1. はじめに

インドネシア・バリ島（以下バリ）の人々は、バリ・ヒンドゥー教を信仰しており、人々の生活は宗教と密接に関係している。バリは、中岡らによる都市形成の研究<sup>[註1]</sup>などから、山の方向と東を聖、海の方向と西を不浄とする、空間のヒエラルキー（ナワサンガ）があることが知られている。（図1）また、不浄な地面（ニスタ）、神聖な天界（ウタマ）その間の世界（マドヤ）の3部構成の宇宙観（トリアンガ）に基づき、寺院は3つの中庭で構成されることなどが知られている。筆者は、既報より宗教空間が儀礼が行われることを想定して配置されていることなどを明らかにした。<sup>[註2]</sup>本稿では、ブンゴセカン村ムルタサリ寺院（以下ムルタサリ寺院）の建築物の構成について報告する。（図2）

2. ムルタサリ寺院について

ムルタサリ寺院は、農業福祉や生活福祉の役割を持つ寺院であるため、田んぼに面した場所に位置する。（図3）ムルタサリ寺院はトリアンガに基づき、寺院の外をニスタ、一つ目の空間をマドヤ、最奥の空間をウタマとする3部。建築物も同様に、基壇（ニスタ）、柱や壁（マドヤ）、屋根（ウタマ）の3部で構成されている。また、山は北側にあり、北東が最も聖の方角であるため、寺院では北東から順に北と東に分かれて重要な建築物が配置される。（図4）ここで、ヒアリングにより得た各建築物の名称、既報により明らかにしたその用途、および材料、寸法を表1に示す。重要な建築物である神のための建

築物の屋根材は、アレンヤシの幹の繊維が使われる。そのほか、守護神の祠には石、人のための建築物には瓦やトタンが使用される。基壇高は、すなわち不浄とされる地面からの高さであり、神のための建築物ほど高くなる。

3. ムルタサリ寺院の建築物

ここではムルタサリ寺院の最奥の中庭、ウタマにある建築物の役割、材料や寸法などの建築的特徴について、類似した役割を持つ建築物ごとに分けて報告する。

(a) 1 Padmasana

これは最も聖の方角に置かれており、各家にも必ず置かれる重要な建築物である。基壇高は最も高く、すべて石で構成されており、空間や屋根はない。複数の台座の上に、神が座る玉座が置かれている。（図6）

(b) 3~7 Pelinggih, 8 Gedung Sari

3~7の建築物はPelinggihと呼ばれ、神が眠るための空間が設けられている。6を除く建築物は、基壇は石とレンガで構成され、その上に装飾のある扉のついた木製の小さな空間が設けられている。<sup>[註3]</sup>（図7）これらの屋根材はヤシである。3~5, 7の屋根は一段、8の建築物は二段である。6 Panglurahは、守護神のための建築物であり、基壇から屋根まですべて石で構成され、基壇の上に空間はあるが、扉はない。

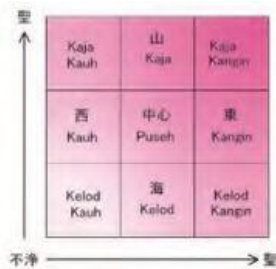


図1 バリ島の空間のヒエラルキー



図2 バリ島とブンゴセカン村の地図



図3 プンゴセカン村の寺院の配置

1: 日大理工・院（前）・建築 2: 日大理工・教員・建築

(c) 12 Bale Ulun Dannu

この建築物に空間はなく、石とレンガの基壇に、4本の木の柱、ヤシの屋根で構成される。柱に囲まれた空間には石とレンガでできた空間を半分ほど占める大きな台座が置かれ、その上に複数の石像が並べられている。

(d) 9 Gedung Sinab, 10 Gedung Barong

これらの建築物は、9は神のシンボル<sup>[注4]</sup>10には神獣バロンなどが保管されており、儀礼時には2, 13の建築物にそれぞれ移される。いずれも屋根材はヤシで、石とレンガでできた基壇に木の柱、東側には石とレンガの壁で囲まれた空間が設けられている。9は神のシンボルが収まる程度、10は人が入れる程度の空間である。どちらも階段が設けられており、9にはその両脇に龍の彫刻がある。

(e) 2 Piasan, 13 Bale Pasamuan

2は10から神獣バロン、13は、儀礼時に神のシンボルが9から移動される。13は、儀礼時に神々が集うと考えられている。どちらも石とレンガの基壇の上に木の柱があり、屋根材はヤシである。また、どちらも9の建築物同様、龍の彫刻がある階段が設けられている。2は基壇の上に同様に石とレンガでできた台座のついた木製の椅子がある。13は、バロンなどのための台が付随しており、北側には石とレンガの壁面がある。儀礼時にはバロンは南向きに置かれ、この台の上で装飾が行われる。(図8)

(f) 15 Bale Pselan, 16 Bale Patok

これらは儀礼時に僧侶が座る建築物であり、最高僧は16に、それ以外は15に座る。屋根材は16の瓦、15はヤシ、基壇は16は石とレンガ、17は石のみである。いずれも柱は木で、16は東面に石とレンガの壁面、15は西側に木の壁面がある。

これらは儀礼時に僧侶が座る建築物であり、最高僧は16に、それ以外は15に座る。16の屋根材は瓦、15はヤシ、16の基壇は石とレンガ、17は石のみである。いずれも柱は木で、16は東面に石とレンガの壁面、15は西側に木の壁面がある。

(g) 11,14,17 Bale Penetapan, Pangenjah, Pesanekan

これらは、人が使用する建築物であり、屋根材はいずれも瓦である。11は儀礼時に使用する装飾や道具が置かれる倉庫の役割を持ち、ウタマの中で唯一コンクリート製の壁面を持つ。14は主に備える前の供物が置かれ、15は儀礼中に人々が休憩する場として使用される。石の基壇に木の柱、柱頭と軒天に装飾がある。

4. おわりに

本稿では、プンゴセカン村ムルタサリ寺院の建築物の構成について報告した。寺院はトリアンガやナワサンガの宇宙観に基づき構成され、北東を中心に重要な建築物が配置される。また建築物は、材料や基壇高によりヒエラルキーが表されている。各建築物の用途は儀礼に対応し、配置・形態と密接に関係している。

本稿ではムルタサリ寺院の各建物構成について明らかにしたが、その意味については課題が多く残された。

今後は、本研究で得られた成果をもとに、柱や壁面の有無、装飾の相違について分析を進め、さらに詳細な建築的特徴とその意味を明らかにしていきたい。

5. 参考文献

- [1] 中岡義介、他 2名、「軸による都市構成の基本的研究」、学術講演梗概集。F-1、都市計画、巻 1997、p. 525-526、1997.7
- [2] Julian Davison, 「BALINESE ARCHITECTURE」、Tuttle Publishing, 2014.3
- [3] 布野修二、他 3名、「ギアニューール(バリ島・インドネシア)の都市空間構成に関する研究」、日本建築学会計画系論文集、第 592号、pp171-178、2005.6
- [4] 興津亜海、小島陽子「儀礼からみたインドネシア・バリ島における宗教空間に関する研究」、2025

6. 注釈

- [注 1] 中岡らは、重要な寺院は村の規模に関係なくほぼ軸に立地していると述べており、宗教建築の重要性がうかがえる[1]。
- [注 2] 筆者は2024年10月14日から17日にかけて行われたオダラン儀礼の調査を行い、寺院図面の作成や、儀礼参加を通じて宗教空間が儀礼と密接に関係していることを明らかにした。
- [注 3] 儀礼時にはこれらの扉は開かれる。神々は13 Bale Pasamuanに集まるためである。
- [注 4] 白い布で包まれた方形の箱のようなものであり、儀礼時に9の建築物から13の建築物へ頭のにせて移動される。

表1 ムルタサリ寺院における建築物の名称、材料、寸法

	建物名	全体高mm	基壇高mm	基壇(足)材	柱/壁(胴)材	屋根(頭)材
Gedung	1 padmasana	6000	2400	石	石	石
	2 Piasan	6560	985	石・レンガ	木/石・レンガ	ヤシ
	3 Undag Sari	4000	1750	石・レンガ	木	ヤシ
	4 Rambut Sadna	4000	1750	石・レンガ	木	ヤシ
	5 Purushada	4000	1750	石・レンガ	木	ヤシ
	6 Panglurah	3600	1850	石	石	石
	7 Panglip Kupan	5000	700	石・レンガ	木	ヤシ
	8 Gedung Sari	4400	1750	石・レンガ	木	ヤシ
	9 Gedung Sinab	5860	1400	石・レンガ	木/石・レンガ	ヤシ
	10 Gedung Barong	6850	950	石・レンガ	木/石・レンガ	ヤシ
Bale	11 Bale Penetapan	4000	400	コンクリート	コンクリート	瓦
	12 Bale Ulun Dannu	5580	1000	石・レンガ	木	ヤシ
	13 Bale Pasamuan	6440	1400	石・レンガ	木/石・レンガ	ヤシ
	14 Bale Pangenjah	4840	500	石	木	瓦
	15 Bale Pselan	5520	750	石	木	ヤシ
	16 Bale Patok	4980	650	石・レンガ	木/石・レンガ	瓦
	17 Bale Pesanekan	5110	470	石	木	瓦

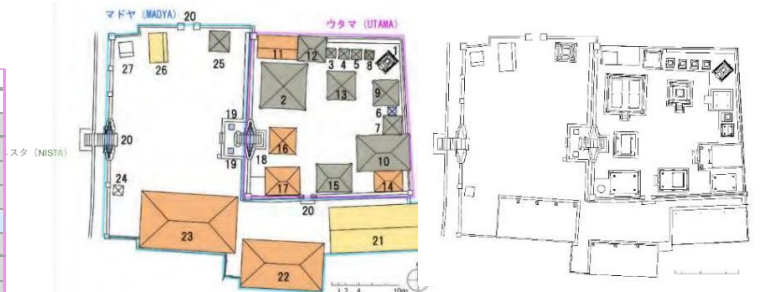


図4 ムルタサリ寺院の配置図および屋根材 図5 ムルタサリ寺院の平面図



図6 Padmasana 立面図 図7 左から3,4,5,8 立面図 図8 Piasan 立面図